

3. 事業報告

1) 組織運営体制の強化

当期は、新理事 5 名を加え（ただし継続理事 1 名辞任）、機能グループの再編を行い事業推進体制を強化、子どもの村の運営、資金開発、広報事業の進展に寄与した。

2) 子どもの村の運営

東日本大震災で親を失った子どもたちをはじめ、さまざまな理由で家族と暮らせない子どもたちの受け入れがはじまり、現在長期養育の子ども 5 人が、3 つの家族の家で生活している。我が国で 2 番目の子どもの村として、子どもの村福岡と連携しながら、里親制度を活用した家庭養護のモデルづくりをめざし、村の運営システムを整え、育親と子どもたちの生活を支援してきた。

(1) 子どもの養育状況

2015 年度は、当初 2 家族 3 人の子どもで出発した（震災孤児を含む）。その後、1 家族増え、新しい子ども 2 人を受け入れ、合計で 3 家族で 5 人の長期養育の子どもを受け入れた。また短期預かりとして、里親レスパイト 4 人（震災孤児を含む）、実親交流 3 人、ふれあい里親 4 人、一時保護 2 人、合計 13 人を受け入れた。

(2) 村の組織づくり、村長を中心とした組織運営・チームワークの強化

2015 年度には、村長、育親 3 人、センタースタッフ 1 人、育親アシスタント 2 人の組織となり、ボランティアの協力も得て子どもの養育支援体制の整備に努めた。それぞれの担当者の役割を明確にするとともに、村運営について検討する運営会議に加え、全員参加の村ミーティング、ファミリーミーティング、育親会議等の充実を図り、村全員による課題の共有・解決を図った。今後の課題としては、村長を中心とする組織体制の強化と、チームワークの強化が挙げられる。加えて、子どもと育親を支える村内サポート体制を整えるため、アシスタントの増強も課題である。

(3) 養育の質の向上

子どもたちの養育の質の向上は基本課題であり、実践の中から見えてくる課題を踏まえ、村全体としての討議・検討が必要である。東北フォーラムで来村された SOS 本部のポッシュ博士の助言と、子どもの村福岡の実践から学んだファミリーミーティングを充実させ、さらに定期的な村内研修等をもうけ、養育の質の向上を図った。

(4) 専門家サポートの確立

毎月 1 回、臨床心理士などの専門家チームの協力のもと、家族支援会議等を開催、養育に関する専門的アドバイスを受けた。また、理事である小児科医や里親会会長等による研修会を設定し、その指導・助言を得ながら子どもの発達支援、家庭養育の質の確保に努めてきた。今後は、養育の質のさらなる向上のために、子どものみならず家族及び村全体に視野を広げた支援会議を充実させていくことが課題である。

- (5) 子どもを取り巻く関係機関との連携
村長、センタースタッフを中心にして、学校、子供会、放課後支援機関、療育機関、区役所等子どもを取り巻く関係機関との連携を図った。
- (6) 実家族への支援
児童相談所と連携し、子どもと実家族との交流や家族再構築について考慮していくことにとどまった。
- (7) 地域とともに育てる
茂庭台町内会及び坪沼地区等の行事に積極的に参加しながら、地域の中で地域とともに子どもを育てる活動に取り組んだ。
- (8) 支援者・メディアの受け入れ
支援者の視察やメディア取材を受け入れ、村の理解と支援・拡大に努めた。1月には、累計訪問者が 2000 名を超えた。また、村の運営に参加するボランティアを幅広く受け入れた。
- (9) 環境整備
村の建物、村庭や備品等の管理を適切に行った。

3)子どもの村センターハウス事業

村のセンターハウスにおいて下記の事業を行った。

- (1) 外部専門家ネットワークメンバーに協力依頼をし、随時育親家庭への支援を行った。また、3 ヶ月に一度、外部専門家が出席する養育支援会議を開催し、各育親家庭の状況や課題を整理し、支援プログラムを検討した。
- (2) 児童相談所との連携を進め、児童の里親委託、緊急一時保護、ふれあい里親、里親レスパイト・ケア等により里子を受け入れた。また、宮城県に転入した実親との交流のため、他県施設に入所している児童を一時的に受け入れた。
- (3) 外部専門家による一般里親家庭への支援に関しては、第Ⅳ期人材育成研修会において、グループワークにより行った。
- (4) 多目的ホール（杜のホール）の活用
 - ①地域住民の会議等の実施
 - ②里親会の行事の実施、芸術療法イベント
 - ③チャリティーコンサートの開催、来村者への見学会・研修会の実施
 - ④人材養成研修（公開講座）の開催

4)子どもの村サポート体制の充実

- (1) 子どもサポートグループ会議の定期的開催
サポート部会を6回開催し、子どもサポート事業の企画・実施の検討をした。

	部会名	開催年月日	開催場所
1	第28回子どもサポート部会	2015年 5月14日(木)	子どもの村センターハウス
2	第29回子どもサポート部会	2015年 6月19日(金)	子どもの村センターハウス
3	第30回子どもサポート部会	2015年 7月25日(土)	子どもの村センターハウス
4	第31回子どもサポート部会	2015年 9月12日(土)	子どもの村センターハウス
5	第32回子どもサポート部会	2015年11月29日(日)	のびすく泉中央 活動室
6	第33回子どもサポート部会	2016年 1月26日(火)	子どもの村センターハウス

(2) 村の運営会議への出席とセンターハウス事業への支援

- ①子どもサポートグループから、月一回の村運営会議へ出席し、村支援を行った。
- ②センターハウススタッフと協議し、上記センターハウス事業への支援を行った。

(3) 子ども支援システムの開発

SOS 子どもの村 JAPAN と連携して、SOSCV オーストリアから講師を迎え、下記の研修会を開催した。

SOS 子どもの村 JAPAN 連携による研修会の実施（メリルリンチ助成事業）

	研修内容	講師名	開催日時／会場
1	東北フォーラム (家族支援プログラム等)	クリスティアン ポッシュ博士、 アントン マゴメチュニック氏、 マルティン ツェアニック氏	2015年11月7日 センターハウス
2	内部研修 (チームビルディング等)	クリスティアン ポッシュ博士、 アントン マゴメチュニック氏	2015年11月6日 センターハウス

5) 子ども・家庭支援のための研修及び人材の確保

(1) 子ども家庭支援のための研修及び人材育成研修の実施

2015年度は、第IV期人材養成研修として、下記の研修会を開催した。

2015年度研修開催（こども☆はぐくみファンド助成事業）

期	研修内容	講師名	開催年月日／会場	参加者
第IV期	「虐待と非行」	橋本 和明 氏	2015年7月25日 センターハウス	31名
	「里親のメンタルヘルス」	大澤 智子 氏	2015年9月12日 センターハウス	27名
	「Quality 4 Children Standards」(内部研修)	松崎 佳子 氏	2015年9月12日 センターハウス	7名

(2) 育親及び村スタッフの採用、人材養成

3組目の育親について、8月に面接、9月に下記の実地研修を行い、二次面接後正式採用となり、2016年1月に入村した。

2015 年度研修開催（こども☆はぐくみファンド助成事業）

	研修内容	研修施設名	開催年月／会場
実 地 研 修	福岡実地研修	SOS 子どもの村 JAPAN (子どもの村福岡)	2015 年 9 月 13～16 日 福岡市内
	宮城実地研修	ざおうホーム	2015 年 9 月 26～27 日 宮城県内

6)子どもにかかわる個人・団体・企業・関係機関との連携

(1) 関係機関との連携

宮城県、仙台市、各児童相談所と「絆」連絡会を開催し、関係機関との情報交換および連携を図った。実施内容は下図の通りである。

絆連絡会

	開催年月日	出席機関	会場
1	2015 年 6 月 19 日(金)	宮城県・仙台市・各児童相談所 ／サポート部	センターハウス
2	2016 年 1 月 26 日(火)	宮城県・仙台市・各児童相談所 ／サポート部	センターハウス

(2) 「もうひとつの絆」プロジェクト

①協働事業である「もうひとつの絆」のフォーラムを 2 回開催した。

もうひとつの絆フォーラム

開催年月日	講師名・演題	会場	参加者
第7回 2015 年 6 月 28 日(日)	特別講演：芹沢 俊介 氏 「『二重の親』について～親になるということ～」 行政報告：宮城県東部児童相談所	石巻桃生公民館	6 1 名
第8回 2015 年 11 月 28 日(土)	特別講演：川松 亮 氏 「児童虐待の背景にあるもの～里親養育による子どもへの支援～」 行政報告：宮城県北部児童相談所	泉中央のびすく	7 3 名

②里親更新研修を、宮城県・仙台市合同で 1 回開催した。

(3) 各社会的養護団体との連携

こどもの夢ネットワーク、宮城県里親会、仙台市里親会をはじめ、地域の社会的養護を支える個人・団体・機関との連携を図った。

(4) 東北ネットワーク

宮城県、仙台市、児童相談所、里親会、各施設、関係団体等と連携し、もうひと

つの絆プロジェクトの事務局として、企画・開催、研修の計画・実施をすすめた。また、今後は里親家庭支援に向けた体制づくりを行政等と協議しながら進めていくこととなった。

(5) 全国ネットワークづくり活動

SOS 子どもの村 JAPAN との連携のほか、SOSCV 国際本部、SOSCV オーストリアから講師を迎え、フォーラムの開催や内部研修を実施することができた。しかし、全国のネットワークづくりへの活動としては限定的なものにとどまった。

7) 子どもの村建設第2期工事の取り組み

家族の家（C、D棟）を建設する第2期工事については、子どもの村の運営状況、資金開発状況等から具体的な建設工事を検討するに至らなかった。

8) 社会的養護に関する情報提供・啓発事業

「子どもの村東北」を開村し本格的な運営に入ったのを機に、多様な機会を利用して、子どもの基本的な権利の尊重と、社会的養護が必要な子どもに関する法人の取り組みを社会に広める事業を展開した。

(1) 新規支援会員の確保、支援会員の支援継続のための活動

「子どもの村東北」発のニューズレターやホームページ、新聞・雑誌などによるメディアなどによる情報発信により、新規支援会員の確保・拡充を進め、支援会員からの支援継続を強化した。

①子どもの村東北“News Letter” Vol.10、Vol.11、Vol.12、Vol.13 を刊行した。

	発行日	内容(概要)
Vol.10	2015年 5月22日	「開村から半年が経過して」他
Vol.11	2015年 7月28日	「子どもの村福岡・子どもの村東北開村記念講演会」他
Vol.12	2015年10月30日	「開村から一周年を前にして」他
Vol.13	2016年 1月30日	「“すべての子どもに愛ある家庭を”再確認して」他

②ホームページ、メールアドレスのドメイン変更を行った。

SOS子どもの村インターナショナル、SOS子どもの村JAPANとの関係性の上で、ドメインにSOSが付いていない方がより適していることから、2015年9月1日より下記ドメインに変更した。

	旧	新
ホームページ	http://soscvtohoku.org/	http://cvtohoku.org/
メールアドレス	tohoku@soscvj.org	info@cvtohoku.org

③新聞、雑誌等を使った情報発信

・雑誌「仙台経済界」:2015年5-6月号から2016年3-4月号まで(計7回)

・新聞「河北新報」:2015年6月28日から2016年2月21日付けまで(計10回)

(2) 広報ツール・啓発グッズの開発

幅広い世代に「子どもの村東北」を認知してもらおうツールとして、ポストカードを制作した。

(3) 街頭宣伝活動

- ① 社会人・大学生・高校生ボランティアの協力を得ながら、年5回の街頭広報募金活動を実施した。

開催日	参加者		募金額
	(理事・スタッフ)	(ボランティア)	
9月26日	12名	5名	¥52,000
10月24日	10名	3名	¥18,989
11月21日	11名	3名	¥23,701
1月23日	9名	0名	¥33,596
3月26日	10名	23名	¥66,267

②学会・イベント会場でも告知活動を実施した

- ・2015年8月22日-23日:日本外来小児科学会年次総会(仙台市)
- ・2015年9月 4日-6日:こけし祭り(鳴子温泉)

(4) 地域での広報活動

センターハウス杜のホールでのチャリティーコンサートを機に、地域の方々に来場頂き「子どもの村東北」を紹介すると同時に社会的養護に関する啓発も行った。

- ・2015年 7月14日:Summer Concert in 子どもの村東北
- ・2015年10月 1日:出張せんくら in 子どもの村東北
- ・2015年12月 6日:ハッピートコとメリークリスマス
- ・2016年 1月 8日:新春琴の調べ

(5) マスメディアとの協働企画による啓発活動

- ・雑誌「仙台っこ」:2015年6-7月号
- ・雑誌「りらく」:2016年2月号
- ・機関紙「SHEASON style」:2015年5月号
- ・雑誌「わんからっとL」:2016年2月号
- ・雑誌「Jinzai Business」:2016年2月号
- ・宮城県医師会報「視座」:2016年3月号
- ・新聞取材(河北新報・東奥日報・カトリック新聞・沼津朝日新聞・西日本新聞)計14回

(6) 時宜を得たイベント、講演会、セミナー等の開催

- ・2015年 7月 3日:子どもの村福岡開村5周年・子どもの村東北開村記念講演会
(福岡市/ロバート キャンベル教授講演)
- ・2015年11月 7日:東北フォーラム(SOS子どもの村インターナショナルポッシュ博士他講演)

(7) ボランティア等の支援者との交流会を開催する

支援者やボランティアによるチャリティーコンサートや卓話・講演が各地で開催され、「子どもの村東北」の理解促進と支援者との交流を行った。特に羽ばたこう「子どもの村東北」支援実行委員会には静岡県を中心に支援者による運営で積極的な活動(講演とコンサート)を展開していただいた。

①コンサート・イベント

- ・2015年 4月30日:ステラ・ムジカチャリティーコンサート
- ・2015年 5月16日:羽ばたこう「子どもの村東北」支援実行委員会チャリティーコンサートin沼津(岩城・宮本・瀧山)
- ・2015年12月 8日:ステラ・ムジカチャリティーコンサート
- ・2015年12月22日:国際ソロブチミスト愛知ガーデニアチャリティーイベント
- ・2015年 2月11日:羽ばたこう「子どもの村東北」支援実行委員会チャリティーコンサートin静岡(岩城・瀧山)
- ・2016年 2月14日:貝ヶ森市民センターバレンタインコンサート
- ・2015年 3月12日:羽ばたこう「子どもの村東北」支援実行委員会チャリティーコンサートin御殿場(宮本)
- ・2016年 3月22日:エマニュエル・ジラールコンサート

②卓話・学会・研修会等

- ・2015年 4月 4日:発達支援ひろがりネット(今野)
- ・2015年 5月15日:石巻ロータリークラブ60周年記念パーティー(瀧山)
- ・2015年 5月25日:仙台東ロータリークラブ(飯沼)
- ・2015年 8月28日:仙台西ロータリークラブ(飯沼)
- ・2015年11月10日:仙台いずみライオンズクラブ(飯沼)
- ・2015年11月19日:仙台泉ロータリークラブチャリティーゴルフ大会(飯沼)
- ・2016年 1月29日:岐阜中央子ども相談センター(岩城)
- ・2016年 3月15日:パイロットの夕べ(田澤)
- ・2016年 3月19日:黒川病院第2回小児科講演会(岩城)
- ・2016年 3月20日:第16回園・学校保健勉強会in町田(高田)

以上のほか、2015年11月24日には仙台市奥村恵美子市長に来村・視察していただき、懇談を行った。

9)資金開発の取り組み

子どもの村の運営をはじめ各事業の推進を支えるための資金確保については、資金開発プロジェクトチームを中心として積極的に活動を展開した。その主要課題を、支援会員の増強と一般寄付の拡大に置いて、マス媒体を活用した広報活動(子どもの村東北の認知度アップ、理解促進)、企業・団体訪問、体制強化した理事による幅広い周辺への支援・協力呼びかけ、講演・卓話などを行った。

また、支援拡大キャンペーンを2回にわたって展開した(9~11月、1~3月)。

その結果、支援会員数は、企業・団体は目標に至らなかったものの、個人は目標を突破、支援寄付額も合計でほぼ目標レベルを確保（達成率 96.9%）するとともに、一般寄付は目標を大きく上回ることが出来た（達成率 170.8%）。

これにより、当期の収益合計は予算を超過達成することとなった（115.6%）。

なお、その他の寄付では、支援チャリティーコンサートを多くの有志の方々が催していただき、前年度を大きく上回る寄付をいただいた（前年度の 5.3 倍）。

また支援飲料自販機及び募金箱は目標設置数を達成できなかったが、売上寄付、募金額は前年度を大きく上回った。

今期後半には、新たな資金開発のツールとしてオリジナルの絵はがきを製作した。今後評価できる成果に向けて取り組みを強化していく。

今年度の取り組みとして、支援会員の組織化及び支援会員感謝の会、支援会員会義の開催を計画したが、諸般の状況から具体化するに至らなかった。次期の課題とする。

○ 主たる指標

・正会員数

個人	目標	50 人	実績	44 人	（前年度 40 人）
企業・団体	目標	10 社	実績	3 社	（ " 3 社）

・支援会員数

個人	目標	800 人	実績	808 人	（前年度 550 人）
企業・団体	目標	80 社	実績	65 社	（ " 36 社）

・支援飲料自販機

設置数	目標	25 箇所	実績	12 箇所	（前年度 7 箇所）
-----	----	-------	----	-------	------------

・募金箱

設置数	目標	230 箱	実績	214 箱	（前年度 201 箱）
-----	----	-------	----	-------	-------------

10) SOS 子どもの村 JAPAN との連携

将来の組織統合を視野において、子どもの村の各種取り組みを充実させていくために、可能な限り連携した活動を展開した。具体的には、子どもの村の理解、認知度向上のための講演会の開催、社会的養護の啓発、レベルアップのためのフォーラムの開催、スタッフの研修交流などを行った。